

11/23 挙って「うちわけ会おぢばがえり」へ



発行
天理教本愛大教会

〒453-0821
名古屋市中村区大宮町1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

今月は6月に続いて2回目となる「うちわけ会おぢばがえり」の強調月。大教会からは11月23日に日を定めての帰参が呼びかけられており、帰参者の募集と別席者の丹精が精力的に行われている。

今月11月は2回目の「うちわけ会おぢばがえり」の月となるが、大教会では23日(日)に団参を行う。また、今回のおぢばがえりでは、別席者の丹精が呼びかけられている。当日初席を運ぶ予定の方は、お誓いや願書の用意等を事前に済ませるようにしていただきたい。

当日は午前11時30分より、本部東礼拝場にておとめが勤められ、係員の誘導に従って、本愛で集まつて勤めさせていただく。おとめの後、東礼拝場殿外にて記念写真の撮影が予定されている。

前回の6月と同様に、帰参報告は各教会で行う。おやさとかた東棟周辺で、うちわけ会のひのきしんも行われる。ぜひご参加を。なお、昼食に本部食を希望される場合は、11月15日までに本愛話所に申し込み

年間活動目標

今日を陽気に。
つながる、
つなげる。

の上、当日東礼拝場に集合時に代金と引き換えに受け取ることができる。その際、

大教会秋季大祭 厳かに

立教の元一日の思召に思いを致す――

立教の元一日に由来する立教188年の秋季大祭は10月13日、大教会神殿で厳かに執行された。祭典には、大教会世話人の松村義司本部長がご巡教くださった。

すがすがしい秋空が広がったこの日、安藤吉人・大

教会長は祭文の中で、本愛につながる教会長・ようぼく一同が「感謝の心を持ち、目の前の人の一人ひとりを大切にし、助けを求める人に向き合うおたすけ活動を推し進め、来る11月23日に実施いたしますうちわけ会

釣銭の必要がないようにご配慮をお願いしたい。

当日は東講堂を休憩場所として利用可能で、利用者には飲み物が提供される他、子供にはお菓子も用意される予定。東講堂の利用時間は午前9時30分から午後2時までとなっている。

おぢばがえりに向けて、この旬に別席者のお与えをいただき、おぢばがえり推進に精一杯つとめさせていただきます」と奏上した。

続いて、おつとめと十二下りのてをどりが陽気につとめられた。

おつとめの後、大教会世話人の松村義司本部長が登壇。年祭を間近に迫っていることを踏まえ、「精一杯やりきったと感じられるように、残り100日を通していただきたい」などと話し、一同に奮起を促された。

11月のこよみ

入社祭

1日 午前10時

よふき会例会

2日 午前10時

女子青年例会

3日 午前10時

月次祭

13日 午前10時

青年会例会

13日 午前10時

布教実修所

14日 午前10時

むつみ会例会

16日 午前10時

こども食堂MOGU

17日 午後4時30分

婦人会例会

20日 午前10時

うちわけ会おぢばがえり

23日

本部月次祭

26日 午前9時

習字のOKEIKO 華水教室

5週目を除く毎週木曜日

現代
に生かす



「用木の道」



文・安藤吉人

SNSが発達し、誰もが自由に思ったことを世界に向けて発信できるようになった現代ですが、お道の中のメディアも少しずつ発展しています。

いま天理時報では、有料のオンライン会員になると過去のアーカイブから古い記事を読覧することができるようになっています。

その中で、昭和6年9月11日の天理時報に教祖の御息女であるおまさ様が「教祖が現身を隠された後に見た夢の話」が掲載されていました。

夢の中で教祖はおまさ様に「おまさ、私厠かわやへ行こうと思ったけれど、厠の草履がないで」とおっしゃった



のだそうです。おま

さ様はこの夢を振り
返り、「常々存命のお

働きを口にしながら
 厠の草履にさえ気が
 つかないでいたのだ
 なんと申し訳ないこ

とだろう」と、以来、教祖殿では教祖のお履物を用意するようになさったそうです。

母は以前に教祖殿での御用にお使いいただいていたが、母によれば、教祖の草履は今もちゃんと教祖殿に用意がされておられるとのこと。

神殿に座布団を置いた理由

天理時報でこの記事を読んだある方が、自分の教会でも、毎朝教祖にお茶をお淹れして、座布団を用意するようにしたと聞かせてくれました。

私たちは、親神様を信じ、教祖のひながたをお慕いするとは口では言いながら、おまさ様が当初草履を用意することに思いが至らなかったように、本当に心の生活の中でもそのことを実践しているかと問われると、いつでも胸を張ってそうと答えられる人は少ないかもしれません。

私もそのことを自問し、反省するところがあつたので、本愛大教会では教祖の前に教祖の座布団を用意することになりました。本部の教祖殿で遠くにではありませんが教祖の赤衣が見えると教祖のご存在をあらためて

感じられますよね。目で見
て感じるということは非常

に大切だと思いますので、
そのようにさせていただく
ことにしました。

赤い座布団が置いてあつてもなくても、教祖がご存命で私たちをお見守りくださっていることに変わりはない。

ありません。けれども、ぜひこの年祭の旬に、本愛につながる皆さんには、教祖のご存在を普段にも増してより一層感じてもらえればと考えています。そのことが、一人ひとりの成人につながると思うのです。

（秋季大祭での挨拶より）

立教百八十八年

秋季大祭 祭典役割

開	賀	指	扈	祭
扉	者	方	者	主
大	佐	安	都	大
教	藤	藤	築	教
会	幸	正	隆	会
長	一	二	道	長
	郎			
		鈴	大	
		木	橋	
		真		
		也	進	

おつとめ役 割

胡三味線弓	小琴	すりが	すね	拍子鼓	ちやんぼん	ちんぼん	地	てをどり										
吉田佳子	前会長夫人	都築花枝	吉田信	和光重男	筑紫新一	桑子保裕	青木健裕	加藤成幸	山神茂彦	出口順英	青木奈美子	佐藤孝代	安教会長夫人	安藤正二郎	前会長	大教会長	(座りつとめ)	
門田和恵	種田里恵	松浦よし	伊藤藤寿輝	塚原光男	山本正太郎	吉野克郎	水野功義	中島功雄	坂倉敏男	種田孝晴	大倉光	加藤ふみ	出口まつみ	出口敬子	松原悟	細川明	杉村善男	(前半)
山本和恵	佐藤多喜恵	上野容子	中島裕信	大橋新一郎	上野孝吉	長尾正誠	野田樹	津田豊樹	山本治行	杉下和	松浦道太郎	細川やよい	吉田優子	津田かずみ	久保眞樹	出口邦彦	長江邦彦	(後半)

教理随想

言わん言えんの理を探る



お道の信仰の基本は報恩感謝の心であり、それはあらゆる信仰活動のエネルギー源となります。では何に対する報恩感謝なのか。その第一は「身上かりもの」のご恩です。

私たちは人間の体に実に精巧で、想像をはるかに超える繊細で緻密な働きが体内に溢れています。それは親神様が、陽気ぐらしができるようにと人間に授けてくださった働きで、目、耳、鼻、口、両手、両足、そして男女一（生殖器官）を貸し与えてくださいました。これらの道具に

ついて使い方をまちがわず、感謝の心をもって正しく使えば陽気ぐらしが味わえるのですが、お互いにしばしば道具の使いまちがいをするから、身上や事情という形で親神様からお知らせをいただくのです。

道具といえれば以前、非常に細かい針金を切ろうとして、近くにペンチがなかったで、手元にあるハサミで切ったら、たちまち刃が折れてしまいました。また小さなネジを回そうとして、身近にあった大きめのドライバーを使ったら、すぐにネジ山がつぶれて困ったことがあります。いずれも道具の誤った使い方によるトラブルでした。

親神様から貸し与えられた九つの道具も、使い誤ると天の理に沿わないことになり、様々なトラブルの原因になることがあります。たとえば、目を考えてみましょう。親神様のお創りになった目と、人間が作ったカメラを比較すると、目の構造がいかに素晴らしいか分かります。目の中にある水晶体は、対象物の遠近によって厚みが自在に変化します。ですからカメラのレンズのように、前後に位置を変える必要があります。また網膜は、わずかに0.1ミリの厚さの中で十層にも分かれた神経細胞が光をキャッチします。これもスマホやデジカメの比ではありません。このように小さな目にも、人知を遥かに超

えた神の絶妙な働きを感じることができます。

また昔から、「目は心の窓」とか「百聞は一見にしかず」といわれます。知識と情報は耳からも入ってきますが、何といっても目からの情報が第一でしょう。すなわち私たちの心を直接左右するのが目です。そう考えると、他の道具に比べて目の持つ役割は極めて重要だといえます。

■目の患いは先案じの心

こんな精巧な目がなぜ悪くなるのでしょうか。その原因を医学的に検査して、適切な治療を受けることは必要ですが、もっと大切なことは、目を創り目を貸してくださっている親神様の思いを深く思案することです。その思いの根本は陽気ぐらしの一点にあるのですから、常に感謝の心を持ち、相手の良いところだけを見るような心がけて目を使わせ

ていただく。これが貸し主の思いに沿う正しい使い方といえます。同時に人や物を見るときという行為について、何か反省するところはないかと考えるのが、信仰者としてのあるべき態度でなくてはなりません。

親神様はおさしづの中で目の患いに対しては、先案じをしないように諭しておられます。人間思案に流れると、目先の欲のために不安となり先案じの心が生まれます。この点を戒められ、どんな中も神にもたれて先案じをしないようにとご教示くださっているのです。

目に限らず、九つの道具の不具合や障りを通して、心の反省をすることが陽気ぐらしへの確かな歩みです。「身上かりもの」への感謝を忘れず、報恩の心をおちばがえりに現して、「うちわけ会おちばがえり」を目標に、多くの人をおちばへお導きいたしましょう。

【第130回】

身体機能は陽気ぐらしを 味わうための借り物の道具

本愛鼓笛バンド
「名古屋まつり」出演

少年会

本愛鼓笛バンドは10月18、19日の両日、「第71回名古屋まつり」に「郷土英傑行列」の先頭を華やかに彩る少年鼓笛隊として出演した。

子供たちの凛々しい姿に、沿道に詰めかけた観衆からは大きな拍手と歓声が送られた。

修養科一期講師

水野一徳氏（本正徳）が、修養科第1008期の一期講師を務めた。

総会開催

婦人会本心委員会（長江まどか委員長）では、9月23日午前10時より、安藤ちかい本愛支部長を迎え、同分教会において「第64回婦人会総会」を開催した。

お出直し

長谷川定夫氏（本愛正分教会三代会長）

8月24日に出直された。享年89歳。告別式は8月27日午前12時より、大池美公雄・本尾愛分教会長を齋主として厳かに執り行われた。

中島春彦氏（本小山分教会三代会長）

9月29日に出直された。享年89歳。告別式は10月1日午前8時半より、吉田克義・本正義分教会長を齋主として厳かに執り行われた。

澁谷三毅氏（本耕愛分教会二代会長）

10月2日に出直された。享年90歳。告別式は10月4日午前10時半より、松原悟・本耕分教会長を齋主として厳かに執り行われた。

大教会日誌

令和7年9月25日～令和7年10月24日

9月

祭主 大教会長 扨者 都築隆道、大橋進

26日 本部月次祭

指図方 安藤正二郎 賛者 佐藤幸一郎、鈴木真也

28～30日 全教一斉にをいがけデー

◇祭典講話 本部員・高安大教会長

30日 常任役員会議、役員会議

松村義司先生

10月

◇大教会長挨拶

1日 入社祭

青年会例会

祭主 大教会長 扨者 杉村善男、伊藤寿輝

14日 布教実修所

指図方 和光重男 賛者 野田正樹、長良英男

16日 むつみ会例会

◇祭典講話 水野和好

17日 こども食堂MOGU

2日 よふき会例会

18～19日 名古屋まつり（本愛鼓笛バンド出演）

12日 常任役員会議

19日 女子青年例会

13日 秋季大祭

20日 婦人会例会